

# 笑い与健康学会 第12回研究大会

「笑い与健康学会」の第12回研究大会が、平成29年10月1日(日)に開かれることが決まりました。六本木ヒルズのハリウッドホールで行われます。皆様のご参加をお待ちしています。なお、詳細は以下の通りです。

**日時：** 2017年10月1日(日)  
14:30～17:00

**場所：** **ハリウッド大学院大学**  
**ハリウッドホール**  
東京都港区六本木6-4-1  
ハリウッドプラザ5F

**会費：** 研究大会：無料  
懇親会：会員無料・非会員2,000円

**プログラム：** ①**会長挨拶**

笑い与健康学会会長  
澤田隆治 先生

②**講演「川柳からみた糖尿病の臨床」**

東京女子医大名誉教授-海老名総合病院糖尿病センター長  
大森安恵 先生

③**活動報告「認知症者に対する笑いのアプローチ～多世代間交流の創作劇活動を通して～」**

獨協医科大学看護学部在宅看護学領域教授  
特定非営利活動法人認知症ケア研究所代表理事  
六角僚子 先生

④**口演「健康落語」**

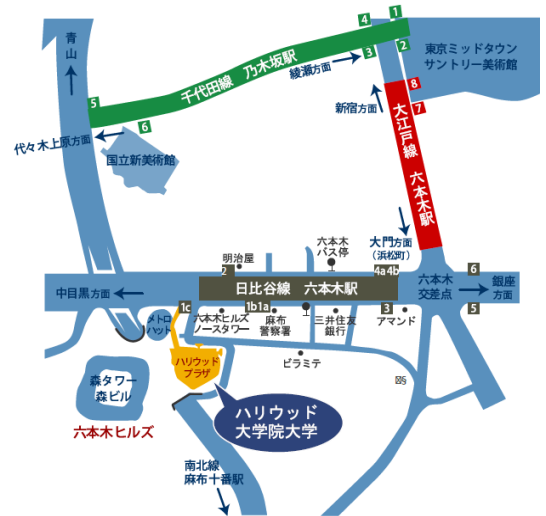
医師・落語家  
立川らく朝 先生

⑤**主催挨拶**

ハリウッド大学院大学メイ・ウシヤマ学園理事長・教授  
笑い与健康学会常任理事  
山中祥弘 先生

**懇親会**

研究大会終了後、ハリウッドプラザ12Fにて行います。



今回の研究大会の内容と講演者のプロフィールをご紹介します。

## **講演「川柳からみた糖尿病の臨床」**

**大森安恵 先生**

**(東京女子医大名誉教授-海老名総合病院糖尿病センター長)**

大森安恵先生は糖尿病研究の第一人者として国際的にも知られた医師で、現在は神奈川県にある海老名総合病院の糖尿病センター長を務めておられます。その一方で詩歌や川柳など日本文化にも造詣の深い方でもあります。

## **活動報告「認知症者に対する笑いのアプローチ～多世代間交流の創作劇活動を通して～」**

**六角僚子 先生**

**(獨協医科大学看護学部在宅看護学領域教授・特定非営利活動法人認知症ケア研究所代表理事)**

六角僚子先生は聖路加看護大学衛生看護学部卒業後、常磐大学大学院人間科学研究科で人間科学博士に。看護師、保健師、介護支援専門員の肩書をお持ちで、現在特定非営利法人認知症ケア研究所代表理事も務められています。長年医療現場で積み重ねた経験から生まれた、認知症ケア、老年看護学は、根拠に基づいた教育や指導が多くのケア提供者から高い支持を受けています。その六角先生に看護現場からみた笑いの効用を語って頂きます。

## **口演「健康落語」**

**立川らく朝 先生**

**(医師・落語家)**

医師で落語家をキャッチフレーズに、最近、テレビやラジオメディアで大活躍の立川らく朝さん。古典落語から新作落語までこなす方ですが、本学会の理事として、何度か研究大会で講演を頂いています。しかし、落語家としての口演は今までありませんでした。とりわけ、らく朝さんならではの「健康落語」は披露して頂いていません。そこで、今回はらく朝落語の真骨頂である「健康落語」を口演して頂きます。医師ならではの健康教育と落語家らしい笑いをミックスした講演をお楽しみください。

### **～笑い与健康学会の功績～**

笑い与健康学会が平成 18 年に創立して、今年は 11 年になります。設立当初は、「笑い与健康の関係について、医学的エビデンスを追求する」と提案しても、一笑に付される状況でした。それでも、笑いの効果を医学的に検証することを心電図による検査、交感神経と副交感神経の変化といった実証実験を積み重ねたりして、本学会は地道に積み重ねてまいりました。このような本学会の活動は、現在では医学界やその関係者に認知され、「笑いは健康に欠かせないツールのひとつ」といわれるようにまでなりました。創立当時はまったく見向きもされなかった笑いの健康効果を思うとこの 11 年は隔世の感があります。

ちなみに、現在、グーグルで「笑い与健康」で検索すると、ヒット件数は 63 万 8000 にまで達しています。しかも、数社の製薬会社のホームページにも「笑い与健康」は取り上げられています。また自治体の大阪府では笑い与健康啓発冊子まで発行しています。一方、福島県立医科大学医学部の疫学講座にも「笑い与健康」は紹介されています。そして、近畿大学と吉本興業は笑いの効果を医学的に検証する共同実験をしていると報じられています。製薬会社から自治体、大学をあげて、本学会が提唱した「笑い与健康」を認め、その輪が大きく広がってきているのが現状です。

しかし、本学会は、現状の笑い与健康の広がりを更に一歩進め、笑いの効果は認知症、糖尿病にも好影響を与えると、最近の研究大会で実証していることはご承知の通りです。

以上のような笑い与健康を取り巻く諸状況から考察すると、本学会が提唱した初期の目的は十分に達したといえるでしょう。